

例言	三
解説	五
参考文献目録	二三
本文	
一、発句(一——一三五)	一
二、七角の五元集について	二三
三、発句と平句、発句(一三六)	三四
四、蝦夷の函養発句(一三七)	三四
五、骨董について	三五
六、淡々の三俳仙贊	四四
七、狐狸の怪異について、発句(一三八)	四四
八、あるいましめ	七五
九、其角の手紙について	七五
十、跋(月溪)	八四
発句索引(季題別)	一
補註	二

次

目

例言

一、本書は、蕪村の句文集として名高い「新花摘」の初板本を影印し、頭註・解説・発句索引を附したものである。  
 一、本書に使用した原板本は、藤井紫影博士旧蔵の初板本と思われるものであり、あらたに撮影の上、影印に附したものである。原本恩借につき、天理図書館長富永牧太先生はじめ、杉浦正一郎・木村三四吾・中村直行諸氏の示された御厚情を深く感謝する。

一、本書の板下は蕪村自筆の草稿であり、極めて流麗潤達の能書である。この影印本では縮写のため、十分には味にくいところがあるかもしれぬが、月溪の挿画と共に、その美しさは相当程度に鑑賞しうるであろう。

一、本書の頭註は、恩師藤村作・志田義秀・頼原退蔵諸博士をはじめ、先学諸家の学恩をこうむるところが多いが、清水の旧稿を、新たに大磯が修正増補して成ったものであり、その責任はわれわれ兩人の負うところである。

発句には(二六)までの番号を附して頭註し、巻末に季題別索引をつけておいたから利用されたい。頭註に収めきれぬ分は、\*印を附し補註として巻末に収めた。そのうち蕪村の例句には○印を附し、引用書は、例えば、「蕪村全集」は「全集」、「新選近代文学・新花摘」は「新選」、「俳文学三種選」は「三種選」等の略称を用いた。

一、本書は、もと大学・高校等の講読・演習用テキストとしてまとめたものであるが、同時に蕪村を愛される一般教養人や俳人諸賢のためにも役立ち得るよう心がけた。従来註釈書類が少いから、できるだけ詳細に諸説をあげて読者の判断にまっとうにした。